

国立国語研究所学術情報リポジトリ

方言終助詞の意味分析：

富山県砺波方言の「ヤ／マ」「チャ／ワ」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): Sentence final particles, TOYAMA, TONAMI, YO, YA, MA, TYA, WA 作成者: 井上, 優, INOUE, Masaru メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001156

方言終助詞の意味分析

— 富山県砺波方言の「ヤ／マ」「チャ／ワ」 —

井 上 優

要旨：本稿では、富山県砺波方言の終助詞「ヤ／マ」「チャ／ワ」の意味について考察する。

「ヤ」「マ」は命令文（依頼文・禁止文を含む）専用の終助詞である。「命令文＋ヤ」は、共通語の「命令文＋よ↑（上昇）」と同様、念おし的なニュアンスを含む命令を表す。これに対し、「命令文＋マ」は、共通語の「命令文＋よ↓（非上昇）」と同様、説得あるいは非難のニュアンスを含んだ命令を表す。両者の使い分けは、「話し手の意向」と「聞き手の意向／現実の状況」の間の矛盾を前提とするかしないかという点に還元される。

「チャ」「ワ」は平叙文専用の終助詞である。「チャ」は「当該の情報Pは既定の事項としてよい」ということを表し、「文脈に存在する～Pの可能性を排除しなければならない（排除すればよい）」ということの表明に用いられる。これに対し、「ワ」は情報Pを「その場で想起された話し手の個人的認識」であることを表し、控えめな情報伝達というニュアンスが生ずる。

キーワード：終助詞、富山、砺波、よ、や、ま、ちゃ、わ

Abstract : This paper deals with the semantics of sentence final particles YA/MA and TYA/WA in the TONAMI dialect spoken in TOYAMA prefecture. YA and MA correspond to YO(rising) and YO(low) in standard Japanese respectively and are used only in imperative sentences. YA has a nuance of seeking confirmation, and MA a nuance of persuasion or criticism. The use of YA/YO(rising) and MA/YO(low) depends on whether or not the speaker assumes a conflict between the speaker's intention and the hearer's intention or the actual state of affairs.

TYA and WA correspond to YO(low) and are used only in declarative sentences. P TYA (P stands for a proposition) expresses that the speaker regards P as a fact or a matter of course, therefore P TYA is used to exclude the possibility of Not-P in the context. P WA, on the other hand, presents P as specifically the speaker's recognition which occurs to him/her at speech time, and is used to introduce new information to discourse in a reserved manner.

Key words : Sentence final particles, TOYAMA, TONAMI, YO, YA, MA, TYA, WA

1. はじめに

富山県砺波方言（筆者の母方言）でよく用いられる終助詞相当表現には次のようなものがある。（以下、方言形はカタカナ、共通語形はひらがなで表記する。）

- (1) [聞き手を安心させようとして]
コンクライ ドモナイチャ。（これくらい大丈夫だよ）
- (2) 甲：アレ？ 井上サン オッテンナイゼ？
（あれ？井上さんがいらっしやらないぞ？）
乙：タブン ワスレモンカ ナンカ シッシャッタガヤワ。
（たぶん忘れ物か何かされたんだよ）
- (3) [すまなさそうに]
ナン ウマイコト イカンドジャ。（全然うまくいかなかったよ）
- (4) チャント 勉強センナ アカン {ゾ/ヨ}。
（ちゃんと勉強しなきゃだめだ {ぞ/よ})
- (5) ナン ハレン {チャー/ネー/ノー}。（全然晴れないねえ）
- (6) ゼンブ タベッシャイ {ヤ/マ}。（全部食べなさいよ）
- (7) [[全部食べていい]というニュアンスで]
ゼンブ タベッシャイカ。（全部食べなさいな）
- (8) ソンナ アワテッシャンナ。（そんなにあわてるな）
- (9) ナンカ タベッ {カ/ケ}？（何か食べるか？）
- (10) ハヨ イコ {マイケ/マイカ}。（早く行こうじゃないか）

この中には、共通語の終助詞相当表現と類似の意味を表すものもあれば、多少異なるタイプの意味を表すものもある¹。（括弧内に示したのもあくまで近似値的な訳。）本稿では、このうち、「ヤ/マ」「チャ/ワ」をとりあげ、その基本的な意味・機能について論ずる。

方言の終助詞の意味を分析することは、共通語を対象とした終助詞の意味論的研究でえられた知見を相対的な、そしてより一般的な視点から位置づけるという意味でも重要な意味をもつ。

なお、本稿で「砺波方言」と呼ぶのは、富山県西部、砺波市以南（五箇山地方を除く）で話されている言語、特に筆者が生まれ育った東砺波郡井波町及びその隣接地域で話されている言語である（地図参照）。世代的には、30代前半（筆者の世代）から60代前半（筆者の両親や先生の世代）の話し手を想定している。

筆者は、1962年東砺波郡井波町に生まれ（父親は1934年富山県婦負郡八尾町生まれ、母親は1935年東砺波郡福野町生まれ）、砺波市の高校を卒業するまで井波で育った。高校卒業以降の言語経歴は以下のとおり。

18～23歳 仙台市，23～27歳 東京都（杉並区・目黒区）

27歳～ 千葉市（美浜区）

分析は主に筆者の内省にもとづくが、井波町在住のネイティブ・スピーカーの内省も参考にしている。



（下野 1983 の図をもとに作成）

2. 「ヤ／マ」「チャ／ワ」の基本的な性質

「ヤ／マ」「チャ／ワ」はいずれも砺波方言における主要な終助詞であり、性別や年齢を問わず広く日常的に用いられる。

- (11) a. ハヨ オキテヤ。(早くおきてよ)
b. ハヨ オキテマ。(早くおきてよ)
- (12) [A, Bが目をこすっているのを見て]
A: アンタ ドー シタガ? (あなた, どうしたの?)
B: a. メーニ ゴミ ハイッタガヤチャ。
(目にゴミが入ったんだよ)
b. メーニ ゴミ ハイッタガヤワ。
(目にゴミが入ったんだよ)

(11), (12)に示したように, 共通語の終助詞で「ヤ／マ」「チャ／ワ」に最も近い意味を表すのは「よ」であるが, (11a)と(11b), (12a)と(12b)はそれぞれ意味が異なる²。くわしい考察は次節以降でおこなうこととし, ここでは「よ」と「ヤ／マ」「チャ／ワ」の基本的な性質を簡単に見ておく。

まず, 「よ」は平叙文・勧誘文・命令文(以下では便宜上「命令文」を命令文・依頼文・禁止文の総称として用いる)・疑問文のいずれにも付加可能な汎用終助詞であるが, 「ヤ／マ」は命令文専用, 「チャ／ワ」は平叙文専用の終助詞である。

- (13) a. ハヨ オキ {ヤ／マ／*チャ／*ワ}。[命令文(命令形)]
b. 早く起きろよ。
- (14) a. ハヨ オキテ {ヤ／マ／*チャ／*ワ}。[命令文(依頼形)]
b. 早く起きてよ。
- (15) a. ウゴクナ {ヤ／マ／*チャ／*ワ}。[命令文(禁止形)]
b. 動くなよ。
- (16) a. ソンナガヤ {チャ／ワ／*ヤ／*マ}。[平叙文]
b. そうなんですよ。
- (17) a. ハヨ イコー {*チャ／*ワ／*ヤ／*マ}。[勧誘文]

b. はやく行こうよ。

(18) a. ナン シトンガヤ {*チャ/*ワ/*ヤ/*マ}。〔疑問文〕

cf. ナン シトンガイ。

b. 何やってるんだよ。

「チャ／ワ」は、平叙文でも、「ラシー」(らしい)、「カモシレン」(かもしれない)などには付加可能であるが、「ヤロー」(だろう)には付加できない。

この点でも「チャ／ワ」は「よ」と異なる性質を持つ。

(19) a. アノ人, 結婚セッシャルラシー {チャ／ワ}。

b. あの人, 結婚されるらしいよ。

(20) a. アノ人, 結婚セッシャルラシー {チャ／ワ}。

b. あの人, 結婚されるらしいよ。

(21) a. (雪は) アシタニャ ヤムヤロー {*チャ/*ワ}。

b. (雪は) 明日にはやむだろうよ。

「よ」の汎用性と「チャ／ワ」「ヤ／マ」の非汎用性については、本稿の最後でもう一度言及する。

以下, 3. で「ヤ」「マ」について, 4. で「チャ」「ワ」について考察する。

3. 「ヤ」と「マ」

3.1. 「ヤ」「マ」の分布

砺波方言の命令文には、非尊敬形と二つの尊敬形があるが、これらはいずれも「ヤ」「マ」が付加可能である³。例えば、「イク」(行く)の場合は次のようになる。(a文が非尊敬形, b文が尊敬形。)

〈命令形〉

(22) a. ハヨ イケ {ヤ／マ}。 (早く行けよ)

b. ハヨ イカレ {ヤ／マ}。 (早く行きなさいよ)

ハヨ イカッシャイ {ヤ／マ}。 (")

〈依頼形〉

(23) a. ハヨ イッテ(クレ) {ヤ／マ}。 (早く行って(くれ)よ)

- b. ハヨ イッテクダハレ {ヤ/マ}。(早く行ってくださいよ)
 ハヨ イッテクレッシャイ {ヤ/マ}。(")

〈禁止形〉

- (24) a. マダ イクナ {ヤ/マ}。(まだ行くなよ)
 b. マダ イカレンナ {ヤ/マ}。(まだ行きなさるな)
 マダ イカッサンナ {ヤ/マ}。(")

砺波方言に限らず、富山県方言では意志・勧誘形で命令的な意味を表すことができる(下野 1983, 真田 1994)。例えば、なかなか起きようとしないう聞き手に早く起きよう催促する場合は、

- (25) a. コラ!ハヨ オキー。[命令形] (こら, 早く起きろ)
 b. コラ!ハヨ オキヨ。[意志・勧誘形] (こら, 早く起きろ)
 cf. ?? こら! 早く起きよう。

の二つをほとんど同じ意味で用いることができる。しかし、意志・勧誘形による命令に「ヤ」「マ」は付加できない⁴。

- (26) a. ハヨ オキ {ヤ/マ}。(早く起きろよ)
 b. ハヨ オキヨ {*ヤ/*マ}。

つまり、「ヤ」「マ」が付加可能なのは、あくまで命令形・依頼形・禁止形であり、「命令」という機能をになう文ではない。本稿で「命令文」と言う場合も、述語の命令形・依頼形・禁止形を用いた文をさすものとする。

3.2. 「ヤ」と「マ」の意味の違い

次に、「ヤ」と「マ」の意味の違いについて述べる。

結論からいえば、「ヤ」「マ」と共通語の「よ」の間には次のような関係が成立する。

- (27) 命令文+ヤ = 命令文+よ↑ (↑: 上昇)
 命令文+マ = 命令文+よ↓ (↓: (下降というより)非上昇)

つまり、共通語では「よ」のイントネーションの違いで表される意味の違いが、砺波方言では終助詞の形式の違いで表されるわけである。そこで、ま

ずは共通語の「命令文+よ↑」「命令文+よ↓」の意味の違い（井上 1993）
について見ることにしよう。

次の例を見られたい。

(28) [12時になった]

1A：午後は12時45分に仕事を始めてください。

2B：たまには1時くらいまで休ませてくださいよ↓。

3A：わかりました。じゃ、1時になったら仕事を始めてください
よ↑。

[1時になった]

4A：1時になりましたから、仕事を始めてくださいよ↑。

[しかし、Bはなかなか仕事を始めようとしません]

5A：ちょっと、1時になりましたから、ちゃんと仕事を始めてく
ださいよ↓。

[結局Bは1時半すぎになってやっと仕事を始めた]

6A：困りますねえ。1時と約束したんだから、ちゃんと1時に仕
事を始めてくださいよ↓。

(28)では、六つの命令文がそれぞれ少しずつ異なる意味あいでも用いられて
いる。その違いを簡単にまとめれば次のようになるろう。

(29) 1A：Aの意向の提示

2B：Aの意向をかえるように求める「説得」

3A：合意内容の「念おし」

4A：動作を実行する時が来たことを知らせる「ゴーサイン」

5A：動作を実行すべき時に実行しないことに対する「催促」

6A：動作を実行すべき時に実行しなかったことに対する「非難」

このうち、「よ↓」が付加された2B（説得）、5A（催促）、6A（非難）

は、それぞれ、

- ・話し手の意向と聞き手の意向とが一致しない。 [説得]
- ・聞き手が動作を実行すべき時に実行しない。 [催促]
- ・聞き手が動作を実行すべき時に実行しなかった。 [非難]

というように、「発話時の段階では話し手の意向どおりに事態が展開していない」ことを受けて発される命令文である⁵。話し手が許容できない状況が存在することを前提に発される命令文といってもよいだろう。

つまり、「命令文+よ↓」は、

- (30) 〈話し手の意向〉と〈聞き手の意向／現実の状況〉との間にギャップがある。

という想定のもとで「聞き手の意向や現実の状況を話し手の意向に合致するよう修正する」ことを要求する命令文なのである。

(31)のような例でも、「よ↓」が付加された場合は「軽い説得」のニュアンスが生ずるが、これも、話し手が「聞き手の当該の動作をおこなうことに消極的である」、あるいは「聞き手は当該の動作をおこなう心の準備ができていない」という想定にたっていることが、「よ↓」によって明示されることになるからである。

- (31) a. [電話で子供と話していて]

ちょっとお母さんにかわってよ↓。

- b. 席があるかどうか、ちょっと見てきてよ↓。

これに対し、「よ↑」が付加された3A（念おし）・4A（ゴーサイン）は、

- ・当該の意向は妥当な意向として認められるはずである。[念おし]
- ・ゴーサインを出せば動作は実行されるはずである。[ゴーサイン]

という想定にたちつつも、意向が共有されているかどうか十分に確信が持てない、という状況で発される命令文である。この場合、意向の内容を念おし的に提示するという意味あいはあるが、聞き手の認識や現実の状況を修正するよう求めるという意味あいはない。

また、(31)のような例で「よ↑」が用いられると、聞き手の消極性等に対する配慮が感じられない「一方的な念おし」になってしまう。

- (32) a. [電話で子供と話していて]

ちょっとお母さんにかわってよ↑。

- b. 席があるかどうか、ちょっと見てきてよ↑。

つまり、「命令文+よ↑」は、

- (33) 〈話し手の意向〉と〈聞き手の意向／現実の状況〉との間にはギャップがないはずである。

という想定にもとづいて意向の共有を確実にするために発される命令文なのである。

「命令文+よ↑」「命令文+よ↓」のこのような意味の違いは、禁止（否定命令）の場合はより明確な形で現われる。

- (34) a. 井上さんの前でそんなこと言わないでよ↑。

b. ぼくにそんなこと言わないでよ↓。

(34 a)は「井上さんの前でそんなことは言わない」よう聞き手に念をおすための文であるが、(34 b)は直前に聞き手が自分に不適切な内容の発言をおこなったことに対して異議を申し立てるための文である。

以上述べたことは、砺波方言の「命令文+ヤ」「命令文+マ」にもそのままあてはまる。

すなわち、「命令文+ヤ」は念おし的な命令であり、〈話し手の意向〉と〈聞き手の意向／現実の状況〉との間にギャップはないはずであるという想定のもとで用いられる。また、「命令文+マ」は、〈話し手の意向〉と〈聞き手の意向／現実の状況〉との間にギャップがあるという想定のもとで、後者を前者に合致させるよう要求する命令文である。

例えば、(28)、(34)を砺波方言に訳すと次のようになる。

- (35) [12時になった]

1A : 午後ハ 12時45分ニ 仕事 ハジメテ[↑]。

2B : タマニハ 1時クライマデ 休マセテマ。

3A : ワカッタチャ。ジャ、1時ン ナッタラ 仕事 ハジメテヤ。

[1時になった]

4A : 1時ニ ナッタサカイ、仕事 ハジメテヤ。

[しかし、Bはなかなか仕事を始めようとしなない]

5A : 1時ニ ナッタガヤサカイ、チャント 仕事 ハジメテマ。

[結局Bは1時半すぎになってやっと仕事を始めた]

6A : 1時ユーテ 約束 シタガヤサカイ, チャント 1時ニ 仕事ハ
ジメテマ。

(36) a. 井上サンノ マエデ ソンナコト イワッジャンナヤ。(=34 a)

b. オラニ ソンナコト イワッジャンナマ。(=34 b)

「よ↓」と同様, 「マ」が付加された命令文も「聞き手の当該の動作をおこなうことに消極的である」, あるいは「聞き手は当該の動作をおこなう心の準備ができていない」という想定にたった軽い説得を表すことができる。

(37) a. [電話で子供と話していて]

チョッコ オカーサンニ カワッテマ。

b. セキ アッカドーカ, チョッコ ミテキテマ。 cf. (31)

〈話し手の意向〉と〈聞き手の意向/現実の状況〉との間のギャップの有無によって命令文に付加可能な終助詞が異なるという現象は, 他の方言(言語)にも観察される可能性がある⁶。

4. 「チャ」と「ワ」

4.1. 「チャ/ワ」と「よ↓」

「命令文+ヤ」「命令文+マ」の意味は, それぞれ共通語の「命令文+よ↑」「命令文+よ↓」に対応する形でとらえることができる。したがって, 砺波方言を母語としない人に意味を説明することもそれほど難しいことではない。これに対し, 「チャ/ワ」は, いずれも共通語に直接対応する形式がないため, その分説明も難しくなる。

まず, 「チャ/ワ」は, 基本的には, 「よ↑」よりも「よ↓」に近い意味を表す。

例えば, 共通語の「基本形+よ↑」は,

(38) さあ, そろそろ帰るよ↑。

のように勧誘的な意味あいで用いられることがあるが, 砺波方言の

(39) ソロソロ カエッチャ。/ソロソロ, カエルワ。

は、

(40) (私または第三者は) そろそろ帰るよ↓。

という意味であり、勧誘的な意味あいはない。実際、(39)は(40)と同様、聞き手の行動をうながす「サア」を加えることはできない。

(41) a. サア, ソロソロ カエル {ヨ↑/ゾ↑/??チャ/??ワ}。

b. さあ, そろそろ帰る {よ↑/??よ↓}。

また、共通語の「～のだよ↑」は、「聞き手もわかっているはずのことがこの場でどう認識されているかよくわからないとして、聞き手に念おしする」というニュアンスで用いられることがあるが、「チャ/ワ」にこのような用法はない。

(42) a. あなたは痛風なんですよ↑。そんなに肉ばかり食べてはいけませんよ↓。

b. アンタ 痛風ナガヤ {ヨ↑/ゼ/??チャ/??ワ}。ソナ ニクバッカ タベタラ アカンチャ。

「チャ」「ワ」を用いた

(43) アンタ 痛風ナガヤ {チャ/ワ}。

は、共通語の

(44) a. きっと, あなたは痛風なんですよ↓。

b. 実は, あなたは痛風なんですよ↓。

と同様、「聞き手は痛風である」という話し手の推量あるいは知識を聞き手に述べる文である。

4.2. 「ギャ+チャ」と「ギャ+ワ」

「チャ」と「ワ」の意味の違いは、「ギャ」(共通語の「のだ」)に付加された場合に顕著な形で現れる。

(45) [A, Bが目をこすっているのを見て]

A: アンタ ドー シッシャッタガ?

(あなた, どうしたんですか?)

B : a. メーニ ゴミ ハイッタガヤチャ。

(目にゴミが入ったんですよ↓)

b. メーニ ゴミ ハイッタガヤワ。

(目にゴミが入ったんですよ↓)

まず、「チャ」を用いた(45 a), そして共通語の「目にゴミが入ったんですよ↓」は,

(46) それが／実は 目にゴミが入ったんですよ↓。

という知識表明(田野村 1990)の解釈, すなわち「わかっているがそれまで言わなかった」情報をオープンにするという解釈と,

(47) きっと／たぶん 目にゴミが入ったんですよ↓。

という推量判断(的断定)の解釈が可能である。

これに対し, 「ワ」を用いた(45 b)は推量判断の解釈のみが可能であり, 知識表明の解釈はできない。実際, 「それが」「実は」など, 知識の表明であることを明示する表現がある場合は「ガヤ+ワ」は使えない。

(48) A : ドー シッシャッタガ?

B : ソンガ／ジツハ メーニ ゴミ ハイッタガヤ {チャ／??ワ}。

共通語でも

(49) A : どうしました?

B : いや, どういうわけか, 親指のつけ根が痛いんですよ↓。

(50) A : 少し飲んでいかれませんか?

B : 申し訳ありませんが, 今日は車なんですよ↓。

(51) あの人, 結婚されるらしいんですよ↓。

のようなノダ文では知識表明の解釈しかできないが, このような例を砺波方言に訳する場合は「チャ」を用いなければならない。

(52) A : ドー シタガ?

B : イヤ, ナンヤシランケド, オヤユビノ ツケネ イタイガヤ
{チャ／??ワ}。

(53) A : チョッコ ノンデカレン?

B : モーシワケ ナケレド, キョー クルマナガヤ {チャ/??ワ}。

(54) アノ人, 結婚セッシャルラシーガヤ {チャ/??ワ}。

また, 同じ推量判断を表す場合でも, 「ガヤ+チャ」と「ガヤ+ワ」とでは多少ニュアンスが異なる。

(55) A : 井上サン, ナン オイデンチャー。(井上さん, 来ないねえ)

B : a. ユキ デカイト ツモッテ, コレンガヤチャ。

b. ユキ デカイト ツモッテ, コレンガヤワ。

(雪がたくさんつもって, 来られないんだよ↓)

「ガヤ+ワ」を用いた(55 b)は, 「その場で新たに思いついたことがら」を述べる文である。それに対し, 「ガヤ+チャ」を用いた(55 a)は,

(56) この場面においては「雪がつもって来られない」という可能性を想定すれば十分である。(他の可能性を考える必要はない。)

というニュアンスがある。このニュアンスは, 共通語の「まあ, パチンコでも, 弓でも同じことさ」(国立国語研究所 1951)における「既定の事実であって, 今さらどうにもならない, 当然の事, 自明のこととして言い表す。それについてとやかくいう事はできぬ, というような傍観的な, なげやりのニュアンス」(同)にも通ずるところがある。

4.3. 「チャ」「ワ」の基本的な機能

さて, 以上のような現象は「チャ/ワ」のどのような性質から派生されるのだろうか。ここでは次のような仮説を提出する。

(57) a 「ワ」は, 当該の情報が「その場で認識された話し手の個人的見解」, すなわち「話し手の認識世界においては真である」として新規に認識された情報であることを表す⁷。

b 「チャ」は, 当該の情報が「既定事項」, すなわち「話し手の認識をこえて無条件に真であるとしてよい」と判断される情報であることを表す。

共通語のノダ文においても,

(58) 私が認識（判断）するかぎりでは、これは目にゴミが入ったのだ。のように「話し手の認識世界に話を限定する」という条件を加えると、「当該の情報が話し手の認識をこえて無条件に真であるとは限らない」という含みが生ずる。そのため、既定事項ということにはならず、「きっと…のだ」くらいの意味あいになるわけだが、ちょうどこれと同じことが「ギャ+ワ」にもおこっていると考えるわけである。

「ギャ+チャ」が知識表明を表したり、推量判断の「ギャ+チャ」が「当該の可能性を想定すれば十分である」というニュアンスを有したりするのも、当該の情報が「既定事項」扱いされているということから説明できよう。

当該の情報を「既定事項」として提示するか、それとも「その場で想起された個人的認識」として提示するかという違い（「よ↓」はこのような違いに関与しない）は、「チャ」「ワ」が付加された文の機能の違いにも反映される。

まず、「Pチャ」は、

(59) Pは「既定事項」であり、発話時の段階で文脈に存在する～Pの可能性を排除しなければならない（排除すればよい）。

ということ述べるために用いられる。「Pギャチャ」における「実はPだ」及び「Pの可能性を想定すれば十分だ」というニュアンスも、「これまで～PということになっていたのをPに修正する」「～Pの可能性を想定する必要はない」ということにほかならない。

これに対し、「PW」は、

(60) 文脈に未導入の情報Pを、まずは「話し手としてはPという認識している」という形で新規に導入し、その線で既成知識やその場の認識の調整をはかる。

ために用いられる。例えば、

(61) a. [聞き手の背中に何かついているのが見えた]

アンタ セナカン ナンカ ツイトル {ワ/??チャ}。

(あなた、背中に何かついていますよ↓)

b. [玄関のドアがあく音が聞こえた]

ア, ダッカ オイデタ {ワ/??チャ}。

(あ, 誰かいらしたよ↓)

のような例では, 当該の情報が「話し手がある場で認識し, 自分なりに納得した」ことがらであることが「ワ」で明示されている。

「ゾ」(共通語の「ぞ」とほぼ同じ)を用いた

(62) a. [聞き手の背中に何かついているのが見えた]

アンタ セナカン ナンカ ツイトルゾ。

(あなた, 背中に何かついでるぞ)

b. [玄関のドアがあく音が聞こえた]

ホラ, ダッカ オイデタゾ。(ほら, 誰かいらしたぞ。)

が「当該の情報を聞き手に強く印象づけようとする」発話であるのに対し, 「ワ」を用いた(61)は「ひかえめな情報伝達」という印象を受けるが, これも, 話し手がとりあえず個人的見解として当該の情報を提示しているからである。

また,

(63) [料理を一口食べて]

ア, コリヤ ンマイ {ワ/??チャ}。(あ, これはうまいよ↓)

のように, 当該の情報が「話し手がある場で始めて気づいた」情報の場合は「ワ」が用いられるが,

(64) A: タノンサカイ, テツダッテマ。(頼むから, 手伝ってよ↓)

B: [しぶしぶ]

ワカッタ {チャ/??ワ}。テツダウ {チャ/??ワ}。

(わかったよ↓。手伝うよ↓)

のように「それまでの考えを曲げる」場合は「チャ」がふさわしい。

「チャ」が「既定事項」を提示し, 「ワ」が「ある場で認識された個人的見解」を提示するという点について, もう少し観察を続けよう⁸。

(65) [クサヤを食べたことがないAがクサヤのにおいをかいで]

A : コンナモン タベレルガケ? (こんなもの, 食べられるの?)

B : a. タベレンコトナイチャ。(食べられないことはないよ↓)

b. タベレンコトナイワ。(食べられないことはないよ↓)

(65 a), (65 b)はいずれも「食べられないことはない」という話し手の知識あるいは推論結果を聞き手に伝える文であるが, ニュアンスは異なる。

まず, 「チャ」を用いた(65 a)は, 「食べられるということは既定事項である」, あるいは「食べられると想定すれば十分である」として, 「食べられないのではないか」という聞き手の疑い・危惧をうちけすよう説得する文である。

これに対し, 「ワ」を用いた(65 b)は, 「自分の記憶をたどってみたかぎりでは, まあ食べられないことはない」, あるいは「今この場で食べてみて判断するかぎりでは, まあ食べられないことはない」ということを述べているだけであり, 特に聞き手を説得するというニュアンスはない⁹。

(66) [医者が患者のけがの様子を見て]

a. コンクライナラ, ナン ドモナイチャ。

b. コンクライナラ, ナン ドモナイワ。

(これぐらいなら, 大丈夫ですよ↓)

「ワ」を用いた(66 b)は, 状況から客観的に判断すると「大丈夫だ」ということが自然に想起されるという意味あいの文であるが, 「タブン ドモナイワ」となると, 確信度の低い個人的な見解という意味あいが生ずる。

一方, 「チャ」を用いた(66 a)は, 「大丈夫ではない可能性を考える必要はない」として聞き手の不安をうちけそうとする発話であるが, 口調によっては, 「これくらい大丈夫, 大丈夫」のように「事態を軽く見ている」というニュアンスも生じうる。

(67) A : [心配そうに]

ウチノコ, ドコ イッタカ シラン?

(うちの子供, どこに行ったか知りませんか?)

B : a. コーエンデ アソンデヤッタチャ。

(公園で遊んでおられましたよ↓)

b. コーエンデ アソ^ンデヤ^ツワ。

(公園で遊んでおられましたよ↓)

(67 a), (67 b)はいずれも「聞き手の子供が公園で遊んでいた」ということを報告する文であるが、「チャ」を用いた場合は、「そんなに心配しなくてもよい」というように、「危ないところにいるのではないか」という聞き手の不安をうちけすというニュアンスが生ずる。

一方、「ワ」を用いた(67 b)は、「私を知るかぎりでは公園で遊んでいた」くらいの意味あいの文であり、場合によっては「私が記憶するかぎりでは確か…」という回想のニュアンスが生ずる。

(68) A : 井上サン, 痛風ナガヤト。(井上さん, 痛風なんだって)

B : a. ソーイヤ, イタソーナ カオ シテヤ^ツチャ。

(そういえば, 痛そうな顔をしておられたよ↓)

b. ソーイヤ, イタソーナ カオ シテヤ^ツワ。

(そういえば, 痛そうな顔をしておられたよ↓)

「ワ」を用いた(68 b)は、「痛風である」と言われれば話し手の中では一応それに関連して「痛そうな顔をしていた」ということが想起される(その結果「痛風である」という情報の確からしさは増す)というくらいの意味あいで用いられる。

一方、「チャ」を用いた(68 a)は「道理で…」あるいは「なるほど…」という意味あいが強い。つまり、話し手は、「痛風である」という情報の確かさは記憶中の「痛そうな顔をしていた」という情報だけで十分裏づけられる(他の記憶と関連づける必要はない)としているわけである。

5. 終助詞の意味と汎用性

以上、砺波方言の終助詞「ヤ」「マ」, 「チャ」「ワ」の意味について考察したが、最後に、終助詞の意味とその汎用性との関連について少し考えたい。

2. で述べたように、共通語の「よ」はきわめて汎用性の高い終助詞であ

り、平叙文・勧誘文・命令文・疑問文のいずれにも付加可能であるが、「ヤ／マ」は命令文専用、「チャ／ワ」は平叙文専用の終助詞であり、汎用性はきわめて低い。「共通語では区別しない意味を砺波方言では区別する」ということしまえばそれまでであるが、筆者には、この「汎用性の違い」ということは終助詞の意味のレベルを考える上できわめて重要な意味をもつように思われる。

まず、砺波方言の「チャ／ワ」「ヤ／マ」は、いずれも、

- ・当該の情報は「既定事項」か「その場で想起された話し手の個人的見解」か。
- ・当該の話し手の意向は、聞き手の意向や現実の状況と矛盾するかしないか。

というように、発話に含まれる「命題内容」の属性に言及するという機能を有する終助詞である。(少なくとも現時点では、そのように分析するのがこれらの終助詞には最もふさわしいと判断される。)

これに対し、共通語の「よ」は、発話に含まれる命題内容の属性には直接言及せず、「発話」そのものの属性(どのような認識のもとで何を意図して発された文か)に言及するということがあるように思われる¹⁰。

そのことが最も端的に現れるのは、特定の命題内容を含まない疑問詞疑問文に「よ」(正確には「よ↓」)が付加されるケースである。

(69) どうしたんだよ↓。何があったんだよ↓。

(69)には、「当該の問題に関して何の仮説もたてられない、あるいは問題が解決の方向に向かわない状態を解消しようとしている」というニュアンスがある。「よ↓」によって、

(70) 文脈(発話現場における認識、話し手と聞き手を取りまく状況)の構築が順調に進行していない状態を解消しよう。

という話し手の心的態度が表示される、ということもできる。

また、

(71) それは違うよ↓。

(72) ねえ、どこか遊びに行こうよ↓。

(73) ちょっと、動かないでよ↓。

のような文における異議申し立て的、あるいは説得的なニュアンスも、話し手が「文脈の構築が順調に進行していない」状態（具体的には、聞き手の考えが話し手の考えと矛盾している、あるいは事態が話し手の意向どおりに展開していないといったこと）を解消しようとしている、という線で説明することができる。

この線でいくと、「よ↑」は、

(74) 文脈の構築が順調に進行するという確信がもてない（が、話し手としては文脈の構築を順調に進行させたい）。

という話し手の心的態度を表示する、とすることができるかもしれない。その場合、

(75) [何か落とした聞き手に]

何か落ちましたよ↑。

(76) 写真をとるから、動かないでよ↑。

のような例では、「当該の情報を聞き手がちゃんと理解する」「当該の状況がちゃんと実現される」という確信がもてない、という心的態度が「よ↑」によって表されると説明される。

また、

(77) おかしいなあ。さっきまでここにあったんですよ↑。

のような場合も、話し手が記憶している内容の正しさを話し手の中で再確認する、ということが「よ↑」によって表されると説明される。

まとめれば、「よ」は、

(78) 「(何らかの意味で) 文脈の構築が順調ではない」という状況に対処して、文脈の構築を順調に進行させようとする。

という話し手の心的態度を表示する、ということになるが、「よ」が「強め」を表すというのも、つまるところはそういうことであろう。

以上述べたことはあくまで筆者が現時点で抱いているイメージにすぎず、

複合終助詞「よね」における「よ」の機能をどのように考えるかといった問題も残る。

しかし、共通語の「よ」が（砺波方言の「ヤ」「マ」, 「チャ」「ワ」とは異なり）命題内容の属性には直接言及しないタイプの終助詞であり、それゆえに種々の文につきうる汎用性を獲得している、というのは自然な見方だと思われる。

終助詞が「命題内容」の属性により言及するか「発話」の属性により言及するかということは、終助詞の意味を記述・説明する際には重要なポイントとなろう。そして、このことが砺波方言の「ヤ」「マ」, 「チャ」「ワ」の意味分析を通じて得られるひとつの知見なのである。

注

- 1 このうち、「ぜ」については井上(1995a)で、また「命令形+カ」については井上(1995b)で論じた。
- 2 「チャ」に似た形式である「チャー」は同意要求を表す「ねえ」に相当する。（どちらかといえば女性語的。男性語的な表現は「ノー」）。
 - ・今日 寒イ {チャー/ノー}。（今日は寒いねえ）この「チャー」とここでの考察対象である「チャ」とを関連づけることができるかどうかについては、別途検討が必要である。
- 3 命令形・禁止形の尊敬形は実質的には丁寧表現として用いられ、自分の子供に対しても使用可能である。（この点は共通語の「…なさい」と同じ）。
 - ・[自分の子供にむかって]
 - a.??イツ イカレル?/イカッシャル? (??いつ行かれる?)
 - b. ハヨ イカレマ/イカッシャイマ。 (はやく行きなさいよ↓)
 - c. アブナイトコ イカレンナヤ/イカッシャンナヤ。(男女とも)
(あぶないところにいきなさんよ↑, 男性語)
- 4 2. では、「チャ」は平叙文専用の終助詞であると述べたが、意志・勧誘形による命令には付加可能な場合があるようである。
 - ・[聞き手をせかすように]
ハヨ イコチャ。(早く行けよ↓/早く行けってば)
- 5 「動作を実行すべき時に実行しなかったことに対する非難」を表すタイプの命令

文は、「命令」という言語行為、すなわち「当該の状況が発話時以降に実現することを求める」ということは表さない。そのことは、次の例ではより明確である。

・[締切の翌日にレポートを提出しに来た学生に教官が]

困りますねえ。ちゃんと昨日のうちに出示してくださいよ↓。

「昨日のうちにレポートを提出する」ことは発話時の段階では不可能である。したがって、この種の命令文は、あくまで「動作を実行すべき時に実行しなかった」ことに対する非難を表すとしなければならない。

6 中国語では、命令文や禁止文に「了」(実現・完了の標識)を付加することによって、当該の動作をその場で実現しなければならない(やめなければならない)という催促・制止の心的態度が表される。

・喝了, 喝了。(飲め, 飲め)

・不要哭了。(もう泣くな) 『小学館中日辞典』

ただし、中国語では、動作を実行すべき時に実行しなかった聞き手に対する非難として命令文が用いられることはない。その場合は、「当該」(…すべきだ)が用いられる(黄麗華氏との個人談話)。

・[締切の翌日にレポートを提出しに来た学生に教官が]

這可不好辦呀。報告應該在昨天之內交來呀。

(困りますねえ。レポートは昨日のうちに出示してくれないとねえ。)

7 服部(1992)は、近畿方言や東京方言における「Pワ」は、「話者の内部で明瞭に認識された事柄(意志を含む)Pの表明において用いられる」としている。砺波方言の「ワ」の基本的な意味・機能もこの線で位置づけることができると思われる。

8 藤原(1986)は、全国の方言における「チャ」「ワ」は、それぞれ「と言やあ」、一人称代名詞「ワレ」に由来するという仮説を提出している。砺波方言の「ワ」が「その場で想起された話し手の個人的認識を提示する」というのも、一人称代名詞「ワレ」に由来することからくるのかもしれない。また、「引用」という観点から「チャ」について考えてみると、確かに「チャ」は終助詞的に用いられる引用形式「って(ば)」と似たところがある。例えば、

・[聞き手を励ますように]

大丈夫ヤチャ。

・[聞き手にあきらめるよう説得して]

ソンナコトヤッテモ, ダメヤチャ。

は、聞き手の「大丈夫でないかもしれない/だめではないかもしれない」という不安や期待を排除しようとして「大丈夫だ/だめだ」ということを既定事項として提示する文であるが、そのニュアンスは、共通語の

・大丈夫だって(ば)。

・そんなことやっても、だめだって(ば)。

が持つニュアンスにかなり近い。「引用」の基本的な性質として「当該の情報の真偽値の変更に話し手は関与できない」ということがあって（他人の発言内容を伝える「伝聞」はその典型）、それが真偽をくつがえせない「既定事項」ということと関連するのかもしれない。ただし、砺波方言には、「って（ば）」に直接対応する形式として「チュガ」があり、「チャ」が「って（ば）」に直接対応するとはいえない。

- ・大丈夫ヤチュガ。
- ・ソナコトヤツテモ、ダメヤチュガ。

9 「ワ」には、ここでの考察対象である「ワ」（ワ1）のほかに、先行発話に対する異議申し立てを表す「ワイ(ネ)」の短縮形としての「ワ」（ワ2）がある。「ワ2」は「チャ」と同じように用いることができる場合がある。

- ・A：コンナモン 食べレルガケ？
B：何 ユートルガ。食べレンコトナイ {チャ/ワ2/ワイ(ネ)}。
(何いってんの。食べられないことはないよ↓)
- ・アンタ 背中ン ナンカ ツイトル {ワ1/??ワ2/??ワイ(ネ)}。

10 この点に関する基本的な考え方は、白川(1993)、連沼(印刷中)に負うところが大きい。

- ・「よ」は、その発話が確実に聞き手の耳に入るように聞き手の注意を喚起する。(白川1993)
- ・「よ」は、認識上の何らかのギャップが存在する文脈で、認識能力の発動を促し、認識形成を誘導する標識である。(連沼(印刷中))

引用文献及び主な参考文献

- 井上 優 (1993)「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」—命令文・依頼文を例に—」『研究報告集』14 国立国語研究所
- 井上 優 (1995 a)「富山県砺波方言の終助詞「ゼ」の意味分析」『東北大学言語学論集』4 東北大学文学部言語学研究室
- 井上 優 (1995 b)「富山県砺波方言の「命令形+カ」」『日本語研究』15 東京都立大学国語学研究室
- 太田栄太郎 (1970)『越中の方言』北日本新聞社
- 金水 敏 (1993)「終助詞ヨ・ネの意味分析」日本認知科学会「学習と対話」研究分科会研究発表会予稿
- 国立国語研究所 (1951)『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』
- 真田信治 (1994)「富山県の方言について」『阪大日本語研究』6 大阪大学文学部日本語学科
- 下野雅昭 (1983)「富山県の方言」『講座方言学6：中部地方の方言』国書刊行会
- 白川博之 (1993)「「働きかけ」「問いかけ」の文と終助詞「よ」の機能」『広島大学教

育学部日本語教育学科紀要』3

- 田窪行則 (1992) 「談話管理の標識について」『文化言語学』三省堂
- 田野村忠温 (1990) 『現代日本語の文法 I : 「のだ」の意味と用法』和泉書院
- 蓮沼昭子 (印刷中) 「対話における確認行為－「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法－」仁田義雄(編)『複文の研究』くろしお出版
- 服部 匡 (1992) 「汎性の終助詞ワについて」『学術研究年報』43 同志社女子大学
- 藤原与一 (1986) 『方言文末詞(文末助詞)の研究(下)』春陽堂書店
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版
- 袁原良二 (1992) 『おらっちらっちらの富山弁』北日本新聞社
- Sperber, D. and D. Wilson. 1986. *Relevance*, Blackwell. (邦訳: 内田聖二他訳 1993 『関連性理論』研究社出版)
- Uyeno, Tazuko Y. 1971. "A Study of Japanese Modality – A Performative Analysis of Sentence Particles", Ph.D dissertation, The University of Michigan.

付 記

本稿は、平成5年度国立国語研究所公開研究発表会(1994年3月23日)において「方言終助詞の意味分析－富山県砺波方言の『ヤ／マ』『チャ／ワ』－」の題で発表した内容の主要部分に加筆・修正を加えたものである。なお、本稿の内容は、日本語教育センター第一研究室の平成5年度一般研究「日本語の対照言語学的研究：日本語方言のモダリティに関する準備的研究」における研究成果の一部である。